



クモはどうしておしりから糸を出すの

糸いぼから糸を出す

クモが糸を出すのは、おなかの先の方にある、「糸いぼ」というところがです。その糸の出口は、さまざまな糸を作り出す腺とつながっていて、クモの糸の使い道によって、それぞれ性質のちがう糸を出します。

たとえば、クモが巣をはるときに、最初の足場を作るのに使う糸、クモの巣の獲物をとらえるためのべとべとした糸、あみにひっかかった獲物を動けないようにかける糸、卵を入れるふくろを作る糸など、みな性質のちがう糸です。

ガヤチョウは、さなぎになるときだけ、まゆを作るために、口から糸を出します。

クモは、卵からかえった子グモも、おとなのクモも、糸を出します。ハエトリグモのように、網をはらないクモも、糸を出します。

糸で風に乗って旅をする子グモ

卵からかえった子グモは、糸を利用して遠くへ旅に出ます。天気がよい日、子グモは草のくきなどの先につかまり、おしりの先を空に向け糸を出します。風に乗って糸が長くのびていくうちに、糸に引っぱられて、子グモは遠くまで風に流されて飛んでいけるのです。

こん虫の足は6本と決まっていますが、クモの足は8本で、2本多いのです。クモは、この2本の足を使って、糸いぼから出る糸を網にしたり、引っかかった獲物をぐるぐる巻きにしたり、卵をくるんだりします。クモがおしりから糸を出すのと、足が8本あることには、何か関係があると考えられています。（監修・中山 周平）

